

あり

太平記評判に十し書曰上杉弾正東國の
軍勢六万余騎よて上京一京朝の地路を
より仁木義長ハ伊賀伊勢よ登向て玉
司小島成と蹴ふとあり續太平記建永年
表曰 後高良院代^る天文二十年八月北
條氏康政上野平井城^{上杉}居^居而^居拒之上杉憲政
委國逃干城後^右上杉憲政^後延文年中受封干
^{二世元暦八十九年}而^必亡矣^矣又曰上杉處平井城制豆相
武兩總房常野越佐及奥羽甲信飛十六

箇國稱伯於關左也後遂為北条氏被滅
云々同十一卷關東申狀京都更政事条
今月三日後府稱上杉憲實須准據關東
後領職下知八州并越後佐渡暨出羽奥
州云々

上杉中納言^諱景勝姓ハ源ヨリて憲政十
一代孫なり憲政といふハ上杉安房守の
事なり位ハ從三位下外を一関東管領ヨ
命セラル又氏部大輝憲政の次代ヨリ関
東管領ヨ命セラルれ菊相の御紋を 勅許